

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っている事、負担に感じている事等を具体的に書いてください。

- ・ 家族が面会を終え帰る際にAさんが訴える帰宅願望への対応。
帰宅の訴えを聞いた妻が精神的に辛くなってしまう。

【質問】

これまで、妻の面会后、Aさんの家へ帰りたいたいという要望に対して、あなたと家族が苦慮したエピソードはありますか？

【回答】

私自身がAさんの帰宅の訴えに対して苦慮するということはありません。どの利用者も同様ですが、家に帰りたいたいと感じるのは当然のことだと感じております。正直申し上げると、その訴えに付き添うことで、他の業務に支障をきたすことは多々あります。私たちの優先業務は、利用者の話を聞いたり、不安を受け入れることだと考えております。なので、私自身が苦慮したことはありません。ただ、帰宅の訴えに対して家族が辛い思いをしており、そのフォローをどうしていくかということについて色々と悩んだことはあります。

- ・ 次回の面会へ繋がらなくなることが危惧される。

【質問】

これまで、妻から「面会に来るのがつらい。」という直接的な言葉がありましたか？

【回答】

「面会に来るのがつらい。」という言葉はありませんでしたが、「本人に会うのが辛い。」という発言がありました。その背景には、『Aさんの帰宅の訴えを聞きたくない。』『もし自分を理解してくれなかったらどうしよう。』という思いがあります。

- ・ 面会の機会が減ることで、家族間の関係が希薄になることも危惧される。

【質問】

「家族間の関係が希薄になる」ということはどのようなイメージですか？例えば、離婚するなど。

【回答】

面会の機会が減ることで、直接顔を合わせることが少なくなり、互いの状況を知る頻度も低下します。また、Aさんは認知症の影響で、家族の顔を見ても家族と認知できないこともあります。このまま面会の頻度が下がると、本人との関わりが少なくなり、精神的なつながりも薄くなってしまいうことも危惧されるという意味で書きました。

- ・ 強い帰宅の訴えに発展しない形での家族との関わり方

【質問】

「強い帰宅の訴え」にはAさんのどのような思いが想像できますか。例えば、「家で何かをする。」「ここには自分の役割や居場所がない。」「妻と一緒に暮らしたい。」など。

【回答】

Aさんの帰宅の訴えには、質問にあるように「妻と一緒にいたい。」「ここは自分の居場所ではない。」という気持ちがあると思います。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・面会に来た家族との語らいの時間や、外出先において家族と心置きなく過ごしていただきたい。
- ・認知症の症状について家族に理解していただきたい。
- ・その上で、Aさんに対する接し方についてスタッフと一緒に考え、実践していただきたい。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)

- ・家族に対して本人の状況を定期的に情報提供する。
各職種からの情報を集約
(ケアスタッフ・看護職・管理栄養士・機能訓練指導員・リスクマネジャー・介護支援専門員・相談員)

【質問】

Aさんの支援に対して多職種間で共有している目標(長期・短期)はありますか？

【回答】

施設サービス計画の目標を各職種で共有しています。

- ・面会時、ゆっくりと語らえる場所を提供する。(施設・ユニットの環境整備についての検討)
ユニット会議・主任会議での検討

【質問】

家への外泊や外出を勧めることはありましたか、また今後勧めるつもりですか？

【回答】

現在まで家族との外出はしておりません。それを当施設から積極的に勧めるつもりはありません。それは、これまでの在宅介護での苦労や、現在の妻の心身状態を考えてのことです。もちろん家族から要望があればいつでも外泊は可能です。

- ・面会時の本人と家族の関係調整

本人の状態(行動や言動等)について、認知症の症状と照らし合わせながら説明する。
認知症の進行に対してショックを受ける家族への心理的なサポート。(障害の受容に関する支援)
家族の前で、Aさんの言動に対して具体的な対応を示すことで、認知症症状への対応についての理解を深める。

【質問】

これまでの家族関係の歴史の中に今回の問題は考えられませんか？

【回答】

Aさんの今後について心配しているのは、家族全体だと考えています。家族は頻繁には面会に来られませんが、会った印象では、みなさんとともAさんのことを考えてくれている様子でした。これまでの特定の家族のキャラクターや家族の歴史が影響している訳ではないと考えています。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・ 家族の面会時、笑顔で話をするものの、家族の帰り際になると「俺も」と荷物を持ち一緒に歩きだす。家族やスタッフの「また来るからね。」の声掛けに対しても、「ああ、いいですよ!」「ああ、いいですよ!」と強い口調で苛立ちを見せることがある。
そのやりとりを負担に感じ、妻は、「やっぱり来ない方がいいのかね。」と困惑してしまう。

【質問】

あなたは、Aさんの「ああ、いいですよ。」の言葉には、どのような意味が含まれていると考えますか？

【回答】

自らの苛立ちをどう伝えればいいのかわからず、とっさに出る言葉が、「ああいいですよ。」なのではないかと感じています。

D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましよう。

- ・ アルツハイマー型認知症のため、「自分が何故ここにいるのか。」「なぜ家族と一緒に居られないのか。」を理解することが難しい。一方で、昔の写真を見て、「良かったときの写真です。」と話すことから、自らの衰えを理解し、受容している様子もうかがえる。

【質問】

自らの衰えとは、施設に入居していることですか、それとも見た目の様子、父親や夫、世帯の大黒柱としての役割の喪失でしょうか？

【回答】

本人が主観的に感じる老い（老性自覚）について指しています。恐らく、見た目や、歳を重ねたことそのものについて、本人は言っていると思います。

- ・ 妻と離れることが辛い

【質問】

あなたは、「妻」はAさんにとってどのような存在だと考えていますか？例えば、自分のことを知っている人、自分の気持ちを素直に吐露できる人など。また、妻に代わる、Aさんにとって支持する人の存在はありますか？

【回答】

妻は何でも話ができる、信頼できる存在だと感じています。そのため、妻に代わる存在は現在のAさんにはいないと考えています。

- ・ 便秘薬の使用により夜間帯の睡眠が浅くなることがある。これを改善する事で日中の傾眠等を防ぐ。
便秘薬の使用以外の方法について看護師・管理栄養士・ケアスタッフと検討する。

E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って(悩んで)いること、求めていることは、どんな事だと思いますか？

- ・家族と一緒に過ごせる場所や時間が欲しい。

【質問】

あなたは、家族と一緒に過ごすことの意味をAさんはどのように考えていると思いますか？

【回答】

家族との関わりを求めるAさんの様子を見て、「一緒にいたい。」と感じているんだな、と素直に捉えています。Aさんが家族と過ごす時間について、どのように捉えているかを私たちが一生懸命考えても、結局その意味を見出すことは困難だと考えています。家族と一緒に過ごしたいという気持ちには、非常に多くの複雑な感情があると思います。適切な回答ができませんことお許してください。

- ・自分の家に帰りたい。

【質問】

あなたは、Aさんにとって「家」はどのような存在だと考えていますか？

【回答】

思考展開シートでも触れましたが、Aさんにとっての「家」と「家族」は同じ意味合いで使用していると考えています。つまり、Aさんの口から発せられる「家に帰りたい。」という言葉の中には、家族と一緒に過ごしたいという感情が込められていると感じています。

- ・昔、好きだったドライブ(外出)をしたい。
- ・日中の倦怠感を軽減したい。

F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつか書き出してみましょう。

- ・課題：面会時、帰宅の訴えや不満が直接家族に向かう事で関係性の悪化が危惧される。
- ・目標：定期的に情報提供を行うことで、スタッフと家族の関係性を良好に保ち、面会時に自然な形でスタッフがサポートを行える環境を整える。これを継続し、本人の状態や認知症という疾患に対する理解を深めてもらう。施設やユニット内で家族と落ち着いて過ごせる場所を設け、気兼ねなく過ごせる場所・時間を設定する。また、外出の際に出先で会える時間を設定する等の工夫も検討する。

【質問】

家族はAさんが今後どうあってほしいと考えていると思いますか。

【回答】

今後、どのような病状を経て最期に至るかという、家族には一般的な認知症の知識があります。それを知った上で、妻は、苦痛や不安を感じることなく、穏やかに過ごして欲しいと考えています。子どもたちは、経済的に支援する意思がありました。

【質問】

認知症の特徴、今後の変化について家族が理解することで、本人の「帰る気持ち」が緩和されると思いますか？どのような目的で認知症の理解を進めたいと考えているのでしょうか？

また、どのような方法で家族の認知症理解を進めるつもりですか？

【回答】

認知症の理解を深めていただくことは、障害の受容を支援するためには非常に重要な段階だと考えています。本人の「帰りたい気持ち」を軽減する目的ではありません。面会時、家族とAさんの関わりの中から、認知症の理解を促すことができると思います。当然ですが、改まった形で教育、指導することはありません。

【全般的な質問】

今回、Aさんの家に帰りたいという気持ちに対して、家族の認知症への理解が不足していることから、今後の家族関係がうまくいなくなることへの懸念をもって、事例検討に取り組んでいただきましたが、あなたの当初の思いと思考展開して様々な出来事から来る「影響」によって作られた障害としてのBPSDとの関係を考えていただいた後の間で、どのようなことを新たに気づくことができましたか、また、何を再度確認することができましたか？

【回答】

思考展開シートにある複数の視点から利用者を見ることで、一定の見地からのみではなく、多くの考えを展開することの重要性を再確認しました。

シートを用いた思考展開については、個別の事例を検討するには非常に効果的だと思います。また、職員の中には、ケアを提供するにあたって、とても感心させられるようなすばらしい視点から利用者を観察している場合も多いと感じています。しかし、細かな気づきや、些細な利用者の変化にも気づく能力を持ちながらも、今回のようなシートを使った作業や、他職種とのディスカッションについては苦手とする者も多く、このような作業はこれらのスキルの向上にも寄与できるのではないかと期待しています。事実、いくつか質問を頂き、Aさんについて新たに検討しなければならないことに気づくことができました。ワークシートへ記入し、それを他の職員が見て客観的に分析したり、ディスカッションすることで、また新たに支援策が見出だせるのではないかと感じています。

（助言者の考察）

事例提供者は「Aさんの自宅にもどりたいという言葉は自然なことであり、『帰宅願望』としてBPSDと捉えて困難、課題と感じていない。」と話しており、BPSDが直接的に負担感を誘発する根拠ではないという意見をいただきました。また、在宅で8年間苦労され施設入居後の妻の葛藤は大変強く、面会のつど「家に帰る。」と言われることがつらいということから、事例提供者は家族が少しでも認知症の特性やAさんの認知症の進行状態を理解することが、妻の精神的な負担の軽減につながると考えて、誠心誠意Aさんと家族との関係が希薄にならないよう取り組んでいる様子がありました。

認知症ケアにおいて「帰宅願望 = BPSD = どう対応するのか = 困難」という式が援助者の経験や知識、職種などにも影響しているといえます。

今回の事例提供者の場合「相談員」ということもあり、直接ケアのみならず、家族との関係の調整が大きな役割となり、単純に帰宅への対応に苦慮することではないことが判ります。また、回答から判るように、「他職種」「経験年数の少ない介護職員」との目標、方針、情報、課題の共有を相談員の立場からどのように図っていくのか、気づかせるのか、伝えるのか、これらの点を課題と感じているように思

いました。その点をこの思考展開シートなどを使うことで、一緒に考える機会になるとのご意見を頂戴することができました。

この事例は、認知症の人を取り巻く人間関係や社会関係の調整の困難さを理解していただき、その困難さを生んでいるのが「BPSD」と短絡的に捉えることがないよう、「広い視点」「複眼」で認知症の人を理解する事が大切であることを知らせてくれる貴重な事例でした。